

『チーム西条』として、西条の元気アップ

そして、子どもたちの輝く未来へ

「つなぐ・つながる」まちづくり

市議会3月定例会が3月1日から23日までの23日間の会期で開かれ、平成23年度予算などの議案が上程され、審議されました。

伊藤市長が議会初日に述べた、市政に臨む所信と新年度の具体的な施策の概要についてお知らせします。

当市を取り巻く最近の社会経済情勢を展望しますと、我が国の景気は足踏みの状態から徐々に脱して、緩やかな回復に向けた動きがみられます。

しかし、今なお不確実性を含む国際金融市場の動向等、海外経済と連動した下振れリスクをはらんでおり、その先行きを、なお注視する必要があります。特に昨年来のデフレと円高の進行は長期化の様相を呈しておりまして、我が国の産業を支えている中小企業の経営力の減退が懸念されます。

このように、外需や為替市場等の外的動向の影響下にもある、我が国の他律的な経済構造の現実にかんがみますと、我が国がグローバルゼーションのダイナミズムの渦中に存立していることを、一層痛感いたしております。

県内第1位の成長力

そうした中、昨年に東洋経済新報社が公開しました全国787の市の成長力ランキングで、当市は全国で第77位、

県内11市中第1位にランク付けされました。合併から今日までの間、当市では市民が「自己責任」と「自己決定」の原則の下、「自立」と「自活」の実現をめざして産業振興を主軸とする独自の政策を「攻め」と「挑戦」「チームワーク」の姿勢で展開してまいりました。

そして、財政の健全・安定化を実現するとともに、知恵と工夫で貴重な財源を活用することにより、福祉、教育文化、都市基盤など、様々な分野における市民生活の充実につなげてまいりました。それらの成果の集積が、この評価に結び付いているものと認識するところであります。

当市成長の道のり

今、改めてこの評価に至った道のりを顧みますと、そこには常に当市をめ

ぐる様々な人や組織、知識、技術、地域資源等が「つながる」ことによって、当市の成長への道が開かれた経緯がありました。

当市発展の礎を築いてこられた、先人から引き継いだものを、合併後、さらに「人づくり」と「しくみづくり」の中で発展させることにより、新たな地域力、すなわち「西条パワー」が生まれてまいりました。

そして、その「西条パワー」をもつて、自主防災の確立をはじめ、企業や大学、研究機関との連携による産業振興、国や県との連携による政策の導入等を戦略的に推進してまいりました。

こうした政策の蓄積が、東予港の重点港湾の選定や企業誘致、また、12歳教育等の防災事業の充実と国連での発信等、次代の当市の持続的な発展に、あるいは次の世代を担う青少年の育成等の成果に結び付いております。